

# 1. 人口、世帯数、年齢別人口等の動向(1)

\*年齢別人口は「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在  
 \*異動人口は平成11～25年の人口異動集計結果による

表1 人口、世帯数、年齢別人口の動向

	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～27年	平成27～令和2年	平成27年比率(%)	令和2年比率(%)	令和2年区平均比率(%)	令和2年市平均比率(%)
人口 (人)	12,985	13,103	13,075	118	▲ 28	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	1,959	1,756	1,480	▲ 203	▲ 276	13.4	11.3	12.6	12.0
(内0～5歳) (人)	894	738	627	▲ 156	▲ 111	5.6	4.8	5.3	4.5
15～64歳人口 (人)	9,037	8,921	9,017	▲ 116	96	68.1	69.0	67.6	63.4
(内20～24歳) (人)	595	627	725	32	98	4.8	5.5	5.8	5.4
(内25～39歳) (人)	3,751	3,017	2,648	▲ 734	▲ 369	23.0	20.3	21.6	17.4
65歳以上人口 (人)	1,989	2,426	2,578	437	152	18.5	19.7	19.9	24.6
(内65～74) (人)	1,192	1,351	1,167	159	▲ 184	10.3	8.9	9.7	11.8
(内75歳以上) (人)	797	1,075	1,411	278	336	8.2	10.8	10.1	12.8
世帯数 (世帯)	6,116	6,323	6,591	207	268				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.12	2.07	1.98					2.23	2.06

\*「町丁別の年齢別人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

図2 人口、世帯数

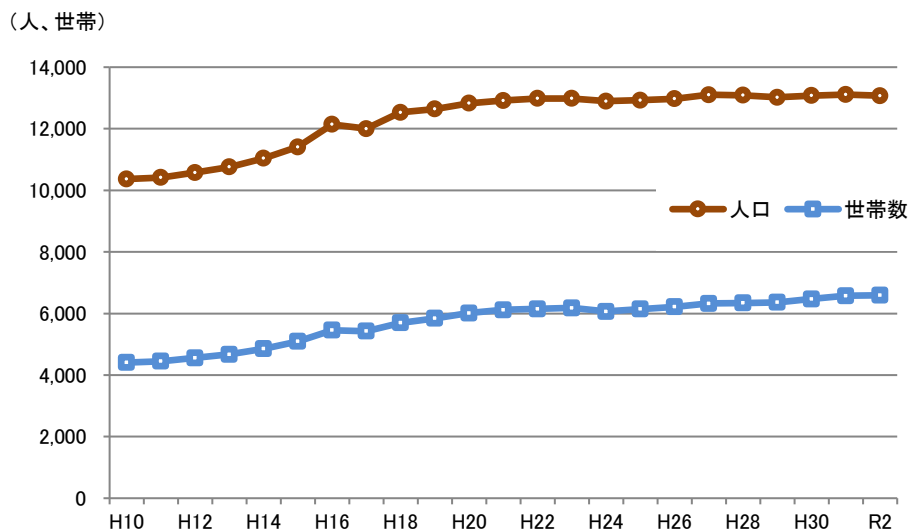
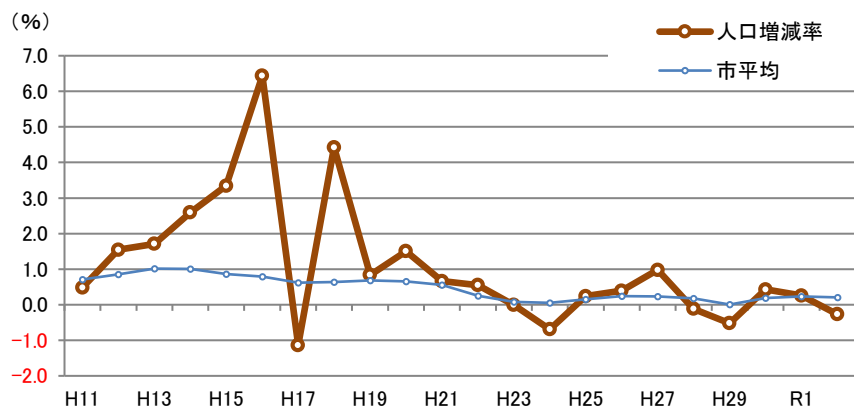


図3 対前年人口増加率



2. 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

\*年齢別人口は「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在  
 \*異動人口は平成11～25年の人口異動集計結果による

図4 平均世帯規模

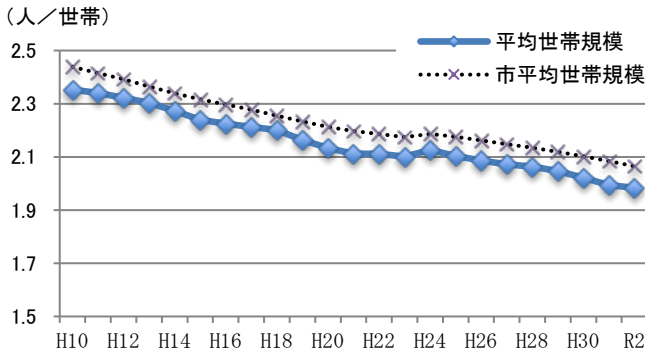


図7 年齢5歳別人口の増減

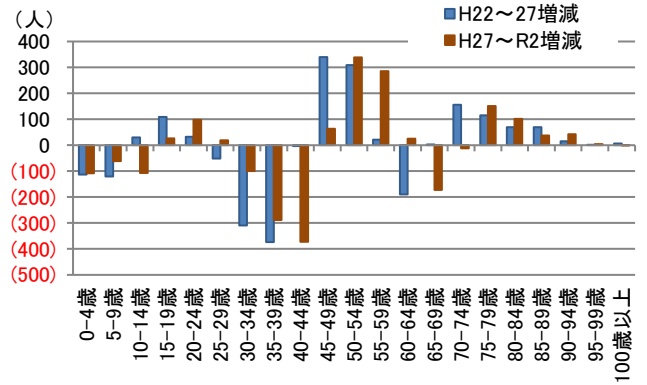


図5 年齢別人口

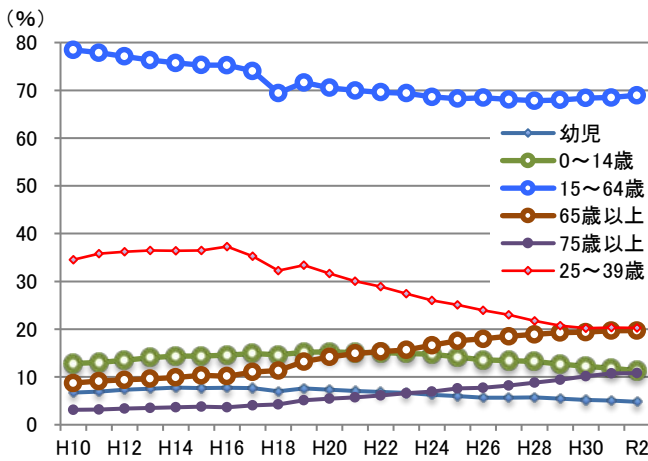


図8 年齢5歳別人口の推移率

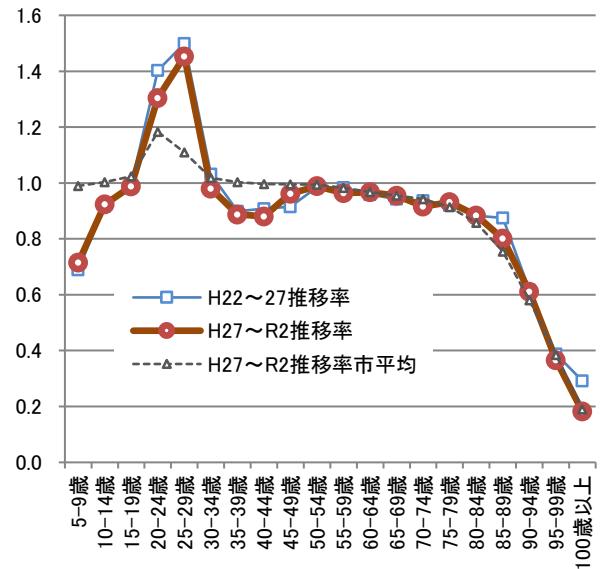
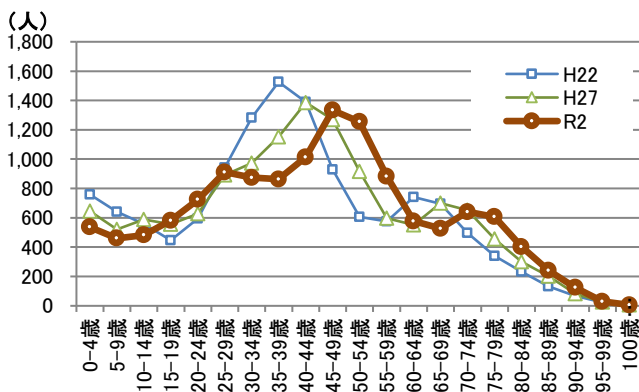


図6 年齢5歳別人口



\*「町丁別年齢別男女別人口」による。9月末現在  
 \*推移率:上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

### 3. 世帯の様子 (1)

\*国勢調査結果による

図9 核家族・単身世帯

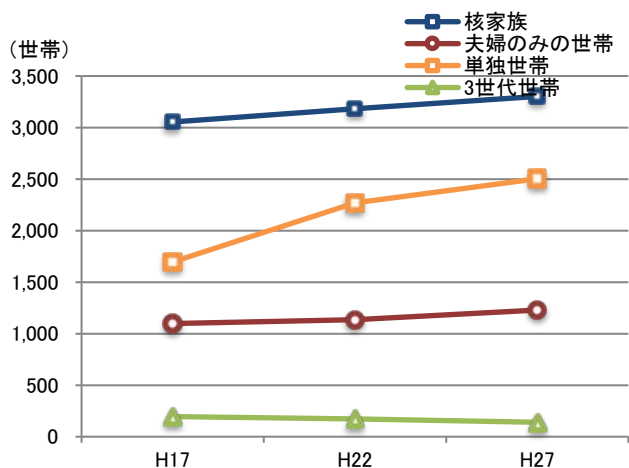


図10 核家族・単身世帯 (比率)

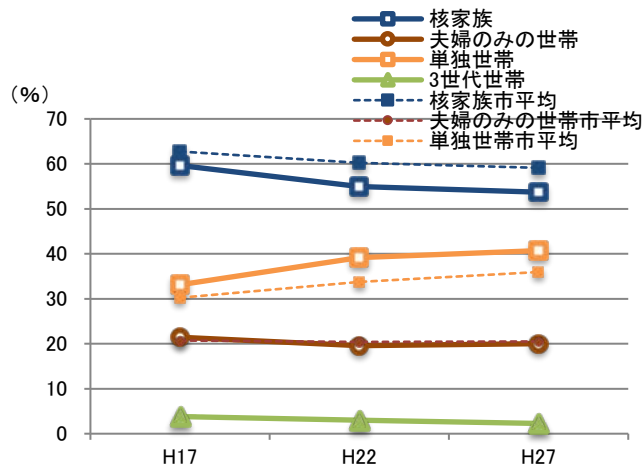


図11 高齢者のいる世帯、6歳未満のいる世帯

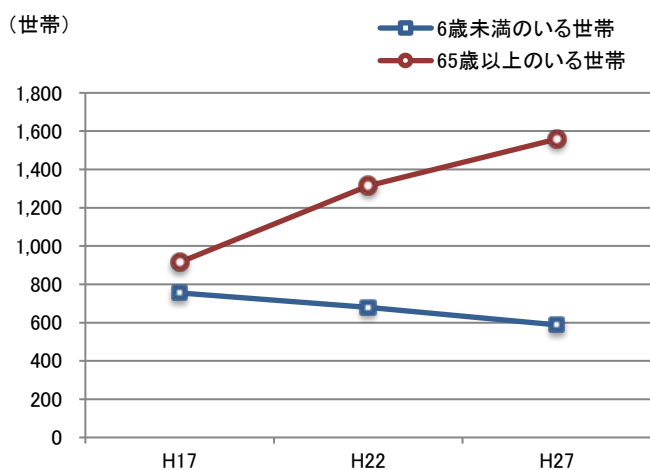


図12 高齢者のいる世帯、6歳未満のいる世帯 (比率)

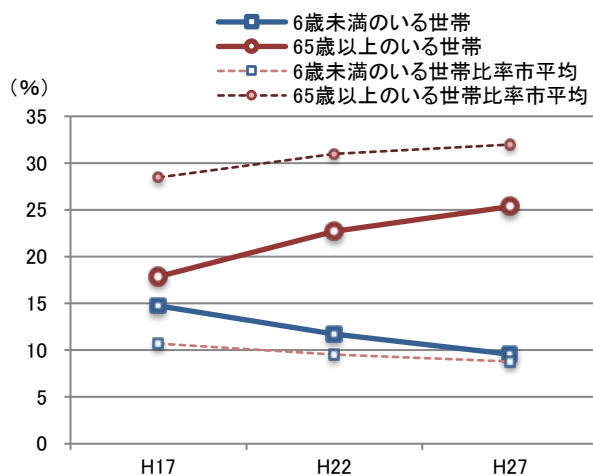
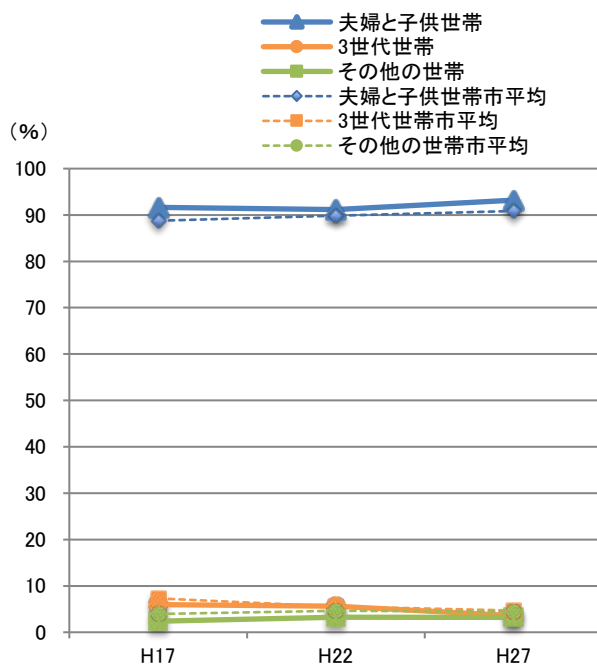
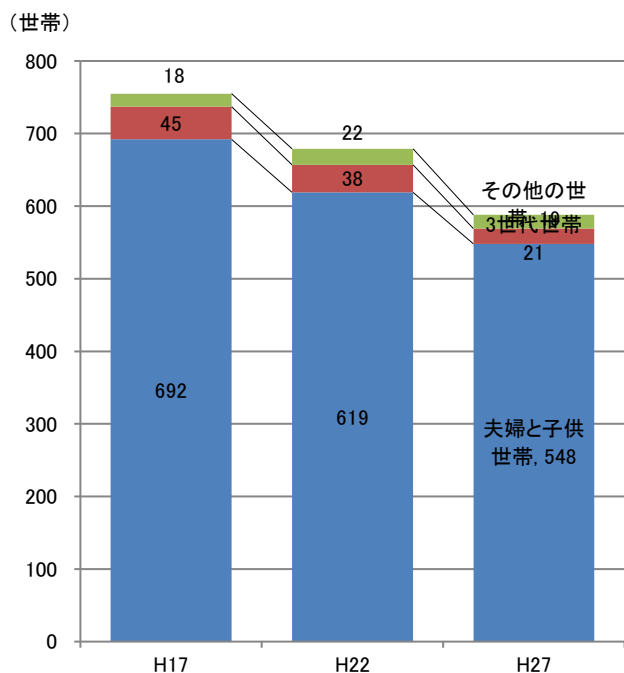


図13 6歳未満の子どもの暮らし方

図14 6歳未満の子どもの暮らし方 (比率)



4. 世帯の様子 (2)

\* 国勢調査結果による

図 15 高齢者の暮らし方

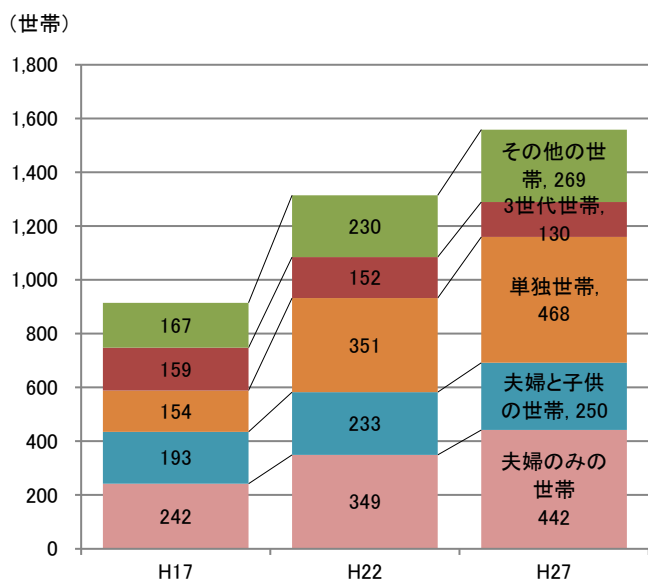


図 16 高齢者の暮らし方 (比率)

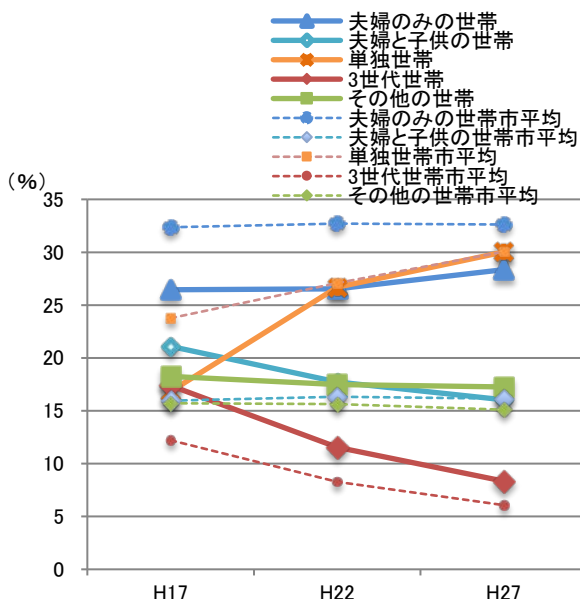


図 17 住宅の所有関係別世帯

図 18 住宅の建て方別世帯

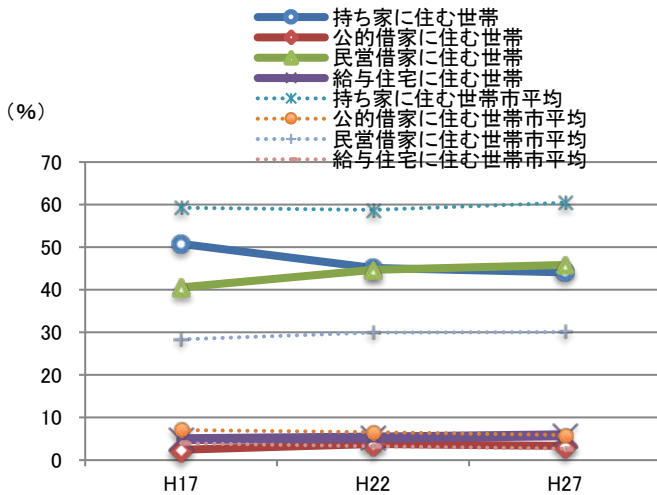


図 19 規模別世帯数

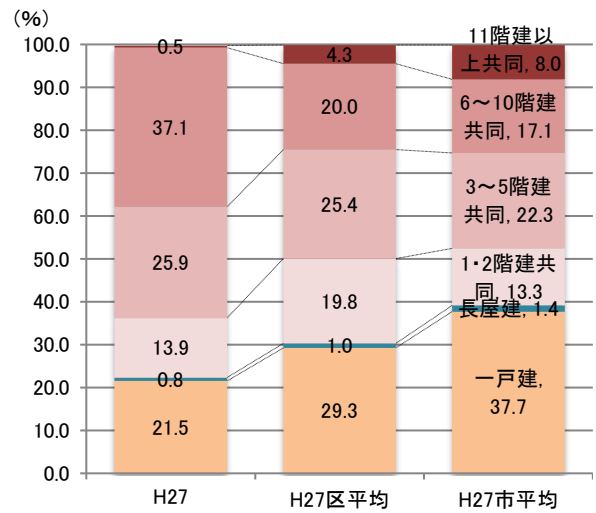
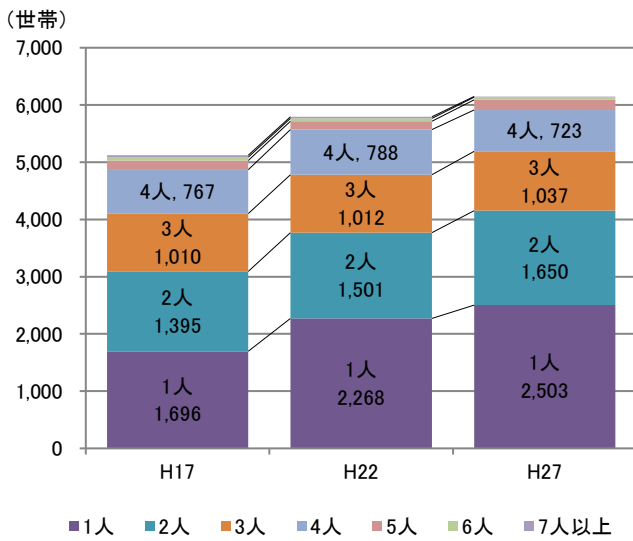
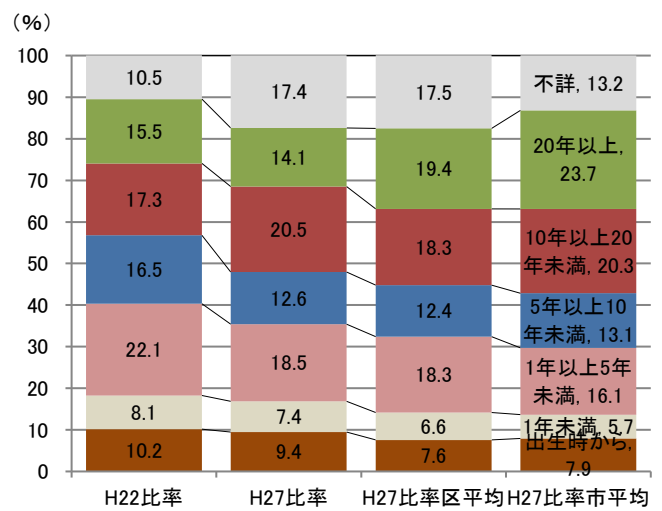


図 20 居住年数



5. 介護認定の状況等(区全体の状況)



\*港北区資料による

表3 介護認定者数の動向（各年9月末）

	H27	R2	H27～ R2増減	H27～R2 増減率
港北区65歳以上人口(人)	64,337	69,652	5,315	8.3
港北区要介護認定者数(人)	11,414	13,088	1,674	14.7
65歳以上人口当たり比率(%)	17.7	18.8	1.0	
横浜市65歳以上人口(人)	860,889	925,540	64,651	7.5
横浜市要介護認定者数(人)	150,138	173,220	23,082	15.4
65歳以上人口当たり比率(%)	17.4	18.7	1.3	

図15 介護認定社数の65歳以上人口比

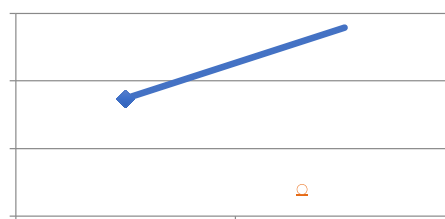


表4 介護認定の内訳（令和2年9月末）

	港北区 (人)	港北区 (%)	横浜市 (人)	横浜市 (%)
要支援1・2	3,508	26.8	49,378	28.5
要介護1・2	5,074	38.8	63,406	36.6
要介護3～5	4,506	34.4	60,436	34.9
計	13,088	100.0	173,220	100.0

図16 介護認定の内訳（令和2年9月末）

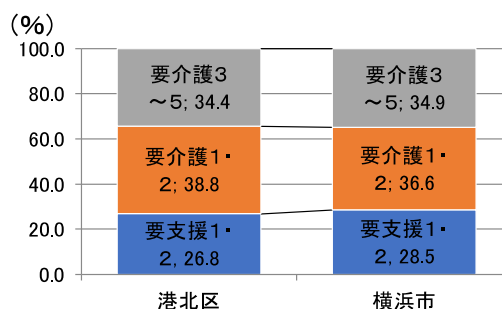


表5 認知症高齢者の日常生活自立度（令和2年9月末）

自立度	港北区		判定基準	見られる症状・行動の例
	人数 (人)	割合 %		
自立	2,478	19.6		
I	3,200	25.3	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	
II a	1,313	10.4	家庭外で、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても誰かが注意していれば自立できる	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ
II b	2,501	19.8	家庭内で、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても誰かが注意していれば自立できる	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない
III a	1,867	14.8	日中を中心として、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末
III b	432	3.4	夜間を中心として、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	ランクIIIaに同じ
IV	741	5.9	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	ランクIIIaに同じ
M	94	0.7	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態
合計	12,626	100.0		

表6 障害者手帳保持者数の動向（各年9月末）

	平成27 年	令和2年	H27～R2 増減	H27～R2増 減率(%)
身体障害者手帳所持者数(人)	7,251	7,436	185	2.6
知的障害者・児童育手帳(愛の手帳)所持者数(人)	1,818	2,308	490	27.0
精神障害者保健福祉手帳所持者数(人)	1,973	2,755	782	39.6

6. 地区の特徴と年齢別人口の見通し

\*近年の年齢別人口の変化の傾向をもとに推計

図 23 年齢別人口の見通し

年齢別人口の動向と推計値(人)

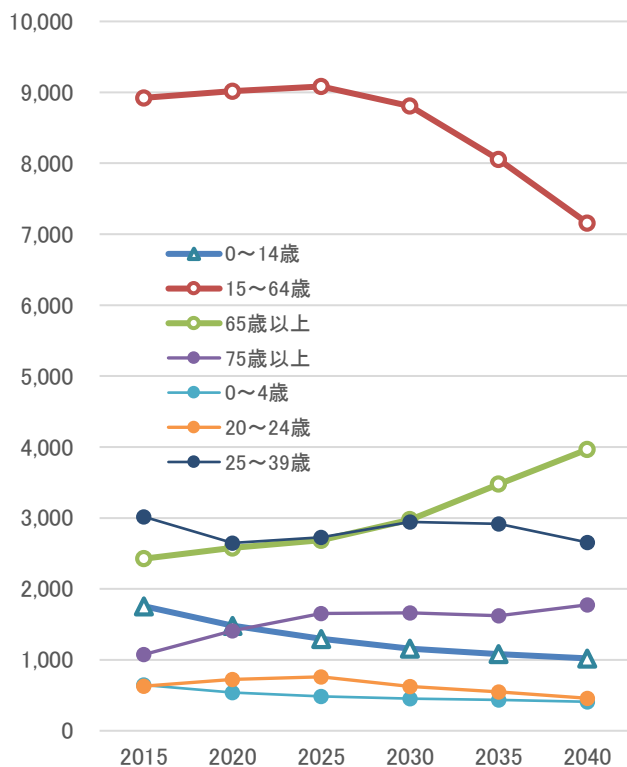
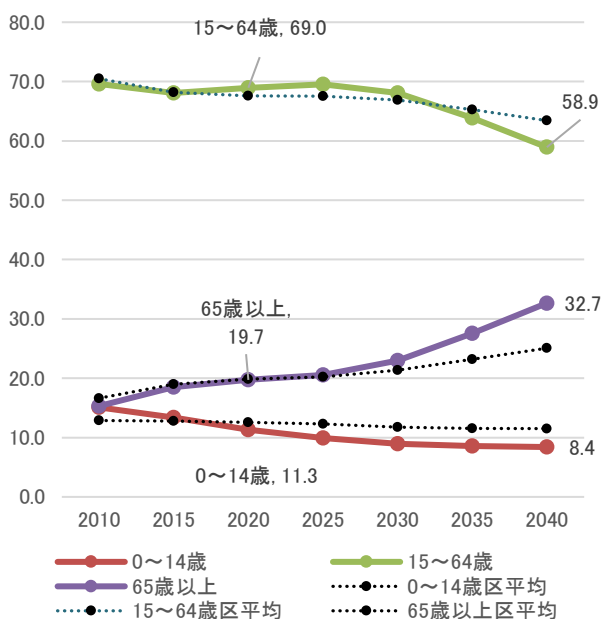


図 24 年齢別人口の見通し(比率)

年齢別人口比率の動向と推計(%)



●人口、世帯数等

新羽地区の人口は令和2年9月末で約13,080人、世帯数約6,590世帯、平均世帯規模は1.98人です。(表1参照)

●特徴(区、市の平均との比較)

- ・人口、世帯数はいずれも安定・微増傾向が続いています。人口はH27~R2年の期間は若干減少しました。世帯数の増加は続いています。(表1、図2、3参照)
- ・平均世帯規模は、市・区の平均と比較してやや小さくなっています。単身世帯が増加しており、高齢者の単独世帯も増加しています。全体として平均世帯規模の緩やかな縮小が続いています。(表1、図4、19、15、25参照)
- ・北新横一丁目は20~39歳の比率が40%を超えており、世帯規模が小さくなっています。(図25参照)
- ・年少人口比率が市・区の平均と比較してやや低くなっています。生産年齢人口の比率は市・区の平均に比べやや高くなっています。高齢人口の比率は市の平均より低くほぼ区の平均です。(表1、図6参照)
- ・20~29歳にはっきりとした転入増加傾向がみられるものの、35~44歳と14歳以下に転出減少傾向がみられます。(図5、8参照)
- ・6歳未満の子どもがいる世帯数の減少が続いています。また、6歳未満の子どもがいる世帯のほとんどが夫婦と子どもの世帯です。(図11、14参照)
- ・高齢者のいる世帯の比率は市の平均より低いものの、世帯数は増加しています。特に高齢の単身者や夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。(図12、15、16参照)
- ・戸建て住宅に住む世帯の比率が区の平均に比べて少なく、6階建て以上の共同住宅に住む世帯数が多くなっています。(図18参照)
- ・また、市の平均と比較して、持ち家に住む世帯の比率が低く、民間の借家に住む世帯が多くなっています。(図17参照)

●動向

現在の年齢別の人口の変化の傾向が続くものとするれば、以下のような変化が予想されます。(図15、16参照)

- ・生産年齢人口は緩やかに増加しています。今後5年間ほど緩やかに増加した後、減少するようになります。
- ・年少人口は、緩やかに減少し始めています。今後もこの傾向が続きます。
- ・高齢者は増加傾向にあります。今後、10年間は緩やかな増加が続きますがその後再び増加し始めます。後期高齢者は引き続き現在と同じ傾向で増加し、今後10~15年間で現在の倍近くになります。
- ・全体として、当面人口は安定した状態が続き、その後減少し始めます。

7. 町丁別人口、世帯数、世帯規模の動向

\*「町丁別の人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

図 25 町丁別人口

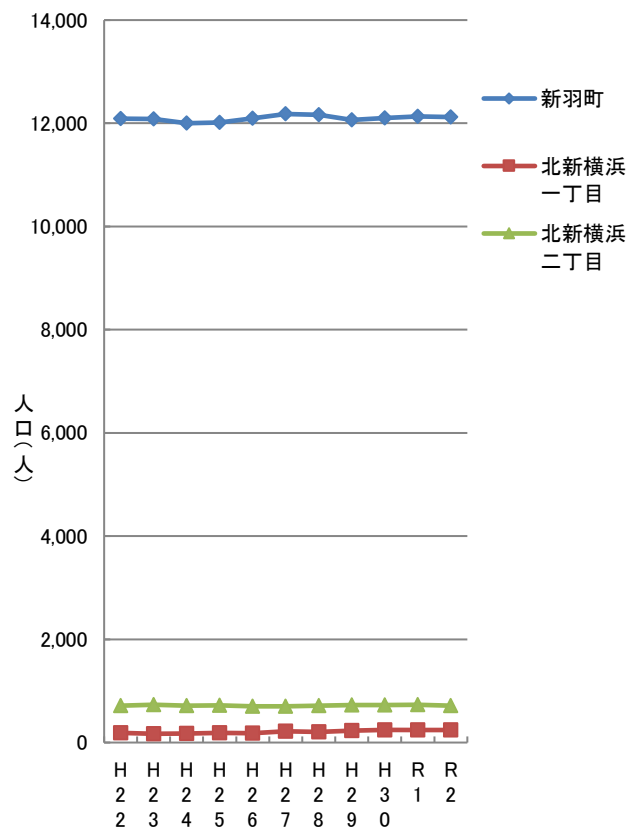


図 27 町丁別平均世帯規模

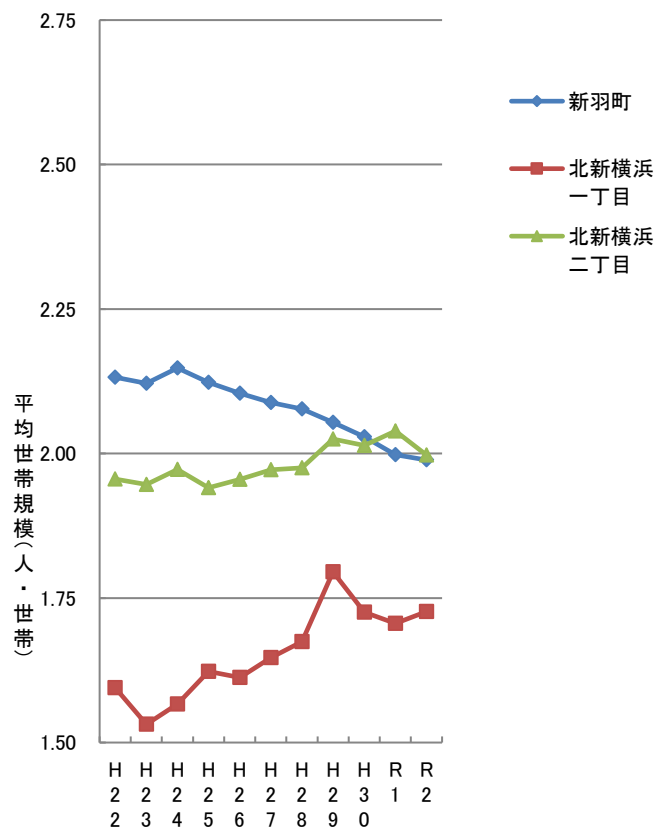
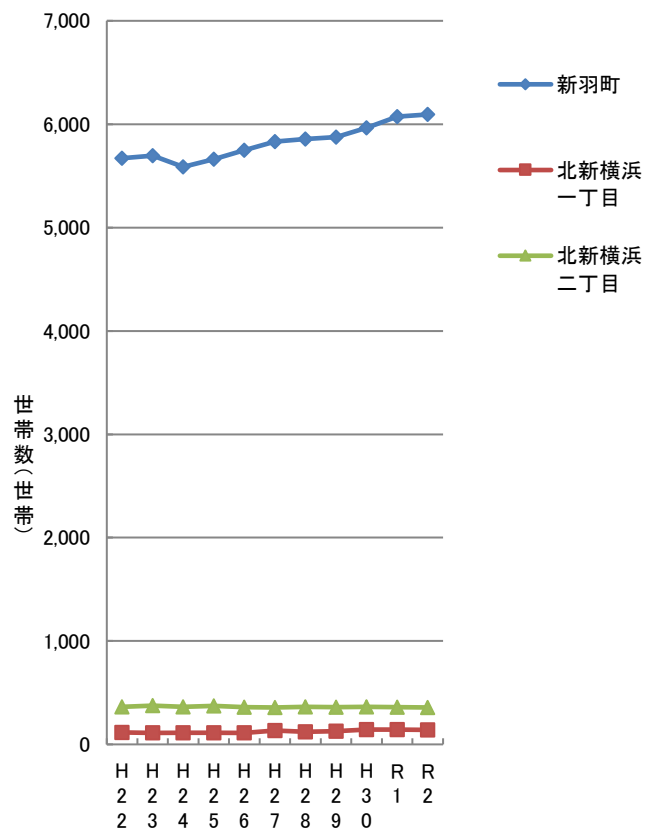


図 26 町丁別世帯数





8. 町丁目別・年齢別人口

\*「町丁目別の年齢別人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

図 28 町丁目別・年齢別人口の割合

